

# 15 障がい者災害対応のてびき

県では、平成30年7月の西日本豪雨災害を教訓に、自然災害や南海トラフ地震等に備えるため、障がいのある方やそのご家族向けに、「障がい者災害対応のてびき」を作成しました。この「てびき」は、災害時において、障がいのある方々が、大切な命を守るための日頃の備えや避難所での生活など、「自助」を中心に紹介していますので、ご自身やご家族に必要な備えを整えてください。

「てびき」は、県障がい福祉課やお住まいの市町の窓口で配布しており、愛媛県ホームページでも公開しています。

アドレス：<https://www.pref.ehime.jp/h15350/bosai-portal/preparation/household/shougaisa-saigaiji-tebiki.html>

**7 障がいに応じた対応**

障がいに応じて準備しておくものや、災害が起きたときに必要となる行動はさまざまです。主な障がいごとに対応例を紹介し、備の障がいも影響して、自分にあった対応を考えてみましょう。

**視覚障がいのある方**

○非常用持出品や備蓄品

- めがねやルーペ ● 白杖
- 音声読み上げ対応携帯電話(充電器)
- 時計(音叉・振動式など)
- 緊急時の連絡先の電子メモ ● 電子錠
- メモ用録音機(音声電池)
- 携帯式ラジオ(カード式)
- 家族写真(家族を捜してもらうため) など

○事前の対策

- 家の扉や非常用持出品などの配置は、いつも同じ場所にしましょう。
- ラジオや電子錠などは近くに置いておきましょう。
- 白杖には、紐などでわかるように識別シールなどを貼り、曲げ壊れないような場所に置きましょう。
- 飛び散ったガラスなどに触れ、厚紙や傘などを併用しておきましょう。
- 盲導犬がいる方は、ドッグフードを多めに買い置きするなど、パートナーに必要な物を準備しておきましょう。(仔犬や猫も同じです。)

○災害が起きたら

- 地震後の扉前は、壊れた物やガラスの破片が飛び出ていることがあるので、あわてて移動しないようにしましょう。
- ラジオ、テレビや防災無線などの汚損に注意し、情報を集めましょう。
- 炊具や鍋、ブザーなどで助けを呼び、視覚障がいがあることを伝えましょう。
- 地震の揺れ、家族や近所の人へ火災や緊急の連絡をお願いします。

目次

- ① てびきの使い方
- ② 災害を知る
- ③ 日ごろの備え
- ④ ヘルプカードの作成
- ⑤ 地震が起きたら
- ⑥ 避難所
- ⑦ 障がいに応じた対応
- ⑧ 関連情報
- ⑨ 私の避難計画

(てびきの一場面) 障がいに応じた対応 (A4サイズ、34ページ)



＜避難行動要支援者の「個別避難計画」について＞

国では、令和3年5月に災害対策基本法を改正し、災害時の避難において配慮が必要な高齢者や障がい者などの「避難行動要支援者」ごとに、避難先や避難支援者等を記入した「個別避難計画」の作成を市町村に努力義務化するなど、災害時における円滑かつ迅速な避難の確保や、災害対策の実施体制の強化を図る措置を講じています。

このため、県内市町では、防災や福祉関係者等が連携して、避難行動要支援者の個別避難計画を作成する取組みを進めていますので、災害時の避難行動に不安を感じている方は、お住まいの市町へ一度ご相談ください。